

# 上巻収録人物

仁海、覚源、寂円、円照、成尊、常寂、護忍、覚俊、定賢、頼昭、懐深、義範、範俊、勝覚、禅惠、懐俊、静意、林覚、良雅、嚴覚、賢円、仁寛、澄成、定海、聖賢、賢覚、公観、覚観、深勝、院厳、覚心、良勝、増俊、実範、覚雅、元海、行海、覚鏡、行朝、珍海、祐源、覚海、宝心、覚鏝、淳寛、宗命、行耀、兼海、聖心、隆賢、賢信、寛宗、亮惠、源運、深賢、房覚、果海、雅宝、一海、実運、行海、乘印、心覚、観祐、宗厳、乘海、寛命、真海、顕果、勝賢、興然、朗澄、雅西、重源、房西、雅海、実海、空聖、乘遍、慶延、守覚、実継、円静、観信

日、東山天皇の勅の二つあり。

①出自

肥前国の追捕使伊佐平次兼元の子。

類聚の『真俗雜記問答鈔』第二十三に記す「伝法院本願上人銘」(略伝)には生れについて、

覚鏝上人は鎮西の人なり。幼くして発心し、遙に南嶺(高山)の雲を望む。

とのみ云い(◎37 p.387F)、家系のことと言及してない。

『興教大師伝記史料全集伝記』(以下『史料全集伝』と略記)所載の覚鏝撰『高野山大伝法院本願靈瑞並寺家縁起』

(以下『靈瑞縁起』と略称)二巻の巻上に、

柏原天皇(桓武天皇)五代の苗裔(平)将門李軍の六葉の氏族なり。親父は肥前(州)府知津之莊或は藤津(藤津郡・鹿島市)の総追捕使伊佐平次兼元或は悪平三にして杵木党

なり。母は同国の有徳の娘なる橘氏の女なり。

と云う(p.3)。本書の巻下の持金剛覚満の奥書に「正応五年五月十二日 豊福寺西南院に於て記之」と云う(p.40)。

上人を以て平将門の子孫とする説は『元亨釈書』巻第五の覚鏝伝にも採用され、『結網集』巻上の「密厳尊者年譜」(◎106 p.388

組見本 (98%縮小)

『仁和寺諸院家記』巻下の「池上(寺)」の条に、  
覚鏝少僧都 大宮権亮(藤原)成隆の猶子。池上僧都と号す。初め宝心阿闍梨より付法し、後に隆海法印に随って灌頂を受く。伝法院座主。  
と云う(『仁和寺史料 寺誌編』p.316)。  
藤原成隆は後一条関白師通の孫であり、また隆海は覚鏝の叔父に当る(『尊卑分脈』p.408)。  
又た『伝法院座主補任次第』には、  
第七座主権少僧都覚鏝  
釈迦院座主(隆海。本名信鏝)の入壇灌頂・入室写瓶資。  
禅定院座主と号す。  
承安二年十二月晦日に之を補す。年四十二。寺務十九年。  
と記されている(統群類四下 p.588E)。

覚鏝 (一〇九五―一一四三/12)

金剛峯寺座主。大伝法院・密厳院本願(開山)。新義真言宗祖。伝法院流祖。通称は正覚房・上人・密厳尊者など。又た賜号に自惟大師(天文九年十月二十日、後奈良天皇の勅(但し後に停止))と興教大師(元禄三年十二月二十六

# 日本密教人物事典

## 醍醐僧伝探訪——全三巻

柴田賢龍 著

### 上巻

A5判・函入・560頁 21000円(税込)  
ISBN 978-4-336-05225-4

- ◎平安後期の醍醐寺僧を中心として、法流上重要な繋がりのある人物を含め、計84名を載録。
- ◎公卿日記や近年刊行の諸史料を猟渉し、新たな記事を発掘。出自や伝法灌頂、エピソードごとに項目を立て、通説の根拠を詳細に検討。
- ◎醍醐寺という一寺院の歴史に留まらず、社会全般と寺院の関わりについて記す。
- ◎読者の理解に資するため、小論「平安時代の密教と醍醐寺」や、「付法略血脈」「村上源氏と醍醐寺」などの系図を付す。

### 中巻の特徴 (2012年刊行予定)

鎌倉時代初・中期を対象とし、遍智院僧正成賢(1162―1231)とその弟子たち、そして金剛王院大僧正実賢(1176―1249)の伝記が特に重要である。成賢は師の勝賢僧正とならび三宝院流を大成した人物であり、その弟子の憲深・道教、あるいは意教上人頼賢などは皆一流の祖師として後世にいたるまでその名を輝かせた。鎌倉時代中葉から本格化する醍醐寺諸流の分派を正しく正確に理解するために重要な一巻。

### 下巻の特徴 (2015年刊行予定)

鎌倉後期から南北朝時代初期を対象とし、諸流の分派と座主職をめぐる争いが大きなテーマ。後醍醐天皇の寵僧文観上人弘真(1278―1357)と足利尊氏の帰依僧賢俊僧正(1299―1357)との対立抗争の顛末を記述して全三巻が締めくくられる。

国書刊行会

〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15 TEL 03-5970-7421 FAX 03-5970-7427  
http://www.kokusho.co.jp e-mail:sales@kokusho.co.jp

取扱店

お名前

ご住所

お電話

# 新纂 大日本統藏経 全90巻

西 義雄・玉城康四郎監修／編集主任河村孝照

B5判・天金 背皮継表紙・函入	7回 ISBN4-336-00139-1	1107.50円(税込)	
1回 ISBN4-336-00133-2	1107.50円(税込)	8回 ISBN4-336-00140-5	1107.50円(税込)
2回 ISBN4-336-00134-0	1107.50円(税込)	9回 ISBN4-336-00141-3	966.00円(税込)
3回 ISBN4-336-00135-9	1107.50円(税込)	別1・総目次 ISBN4-336-00142-1	1107.50円(税込)
4回 ISBN4-336-00136-7	1107.50円(税込)	別2・書名索引 ISBN4-336-00143-X	1107.50円(税込)
5回 ISBN4-336-00137-5	1107.50円(税込)		
6回 ISBN4-336-00138-3	1107.50円(税込)		

## ◎日本仏教界が世界に誇る大蔵経

『大日本統藏経』は、大正新脩大蔵経や大日本仏教全書とともに、漢訳仏教典籍を網羅した一大叢書として、明治三十八年の初版以来ながく仏教研究の基本文献として重要視されてきた。まさに、日本仏教界が世界に誇る大蔵経である(『大正新脩大蔵経』との重複は総典籍一六七一篇中四五六篇のみ)。

## ◎日本仏教の源流——各宗著述部を集大成!

釈尊にはじまる仏教の流伝のなかで、日本仏教各宗派の多くは中国仏教にその源流をもつ。『統藏経』には、華嚴・天台・真言・浄土・法相・律・禪など各宗の重要典籍をはじめ、他の大蔵経に未収録の貴重文献や、各宗の碩学・名僧の著書・語録を豊富に収録している。

## ◎中国仏教典籍を全網羅

近代の中国仏教研究の門戸はこの『統藏経』の刊行によって開けた。本書の最大の特徴は、中国撰述のほとんど全ての仏教文献を蒐集した点である。今回の新纂ではさらに中国撰述部も収録し、完璧を期した。これにより、名実ともに、中国仏教資料の唯一最大の叢書となった。

## ◎体裁を整備

従来の和装本二段組を三段組に改め、典籍の配列順序を整理、未収録典籍の増補を行ない、合わせて正蔵経の中国撰述部を収録。さらに、経典ごと

# 真宗全書 全75巻

妻木直良編

A5判・上製布クロス装 揃五五・二、二五〇円(税込)

1~25巻 ISBN978-4-336-05015-1 一八三、七五〇円(税込)

26~50巻 ISBN978-4-336-05016-8 一八三、七五〇円(税込)

51~75巻 ISBN978-4-336-05017-5 一八三、七五〇円(税込)

## ◎空前の浄業

本書は大正二年から五年にかけ、正・統七十四巻が刊行された。真宗の伝統教学の基盤のうえに、明治以来の近代的仏教研究の成果を加え、碩学妻木直良師の心血をそそぐ編纂により真宗の総力を結集した一大叢書である。真宗が今日に誇る不滅の金字塔であり、真宗各寺院をはじめ、研究者など全ての真宗の法縁につながる仏教者の、是非とも備えられるべき宝典である。

## ◎真宗教学の権威ある集大成

宗祖親鸞の開かれた真宗教義を中心に、その後の長い真宗史のなかで、幾多の高僧・学匠により重要な註釈類が作られてきた。特に江戸期には多くの著名な学匠が活躍し、その後の教義解釈に大きな影響を与えた。本書では真宗教学の膨大な註釈書を通観し、重要な書をもれなく収録し、権威ある集大成となっている。

## ◎定評ある真宗資料の宝庫

長く各本山・龍谷大学・大谷大学・全国寺院に秘蔵されてきた貴重な文献を渉猟している。発売以来、真宗研究の基本資料の宝庫として高い評価をうけ、今日なお、真宗学をはじめ、仏教学・日本思想・歴史学・文化史学・国語学の各分野に必須の文献として揺るぎない地位をもっている。

## ◎真宗各派の全貌をたどる史伝部

史伝関係資料としては、真宗七高僧伝、大谷本願寺通記、高田三祖説、仏光寺中興了源上人伝など、真宗各派にわたる典籍を網羅している。

に典籍番号をつけ、序文・跋文などにも番号をつけた。旧版では中国仏教資料の宝庫として不滅の権威と、高い評価をもちながら、反面、検索・利用上の不便さがあったが、今回の整備により、近代の学問研究の資料としての体裁を整えた。

配本巻数内訳	
第1回 第4・5・6・7・8	12・13・29・30巻
第2回 第9・14・15・16・20	21・22・27・34巻
第3回 第10・11・17・18・24	25・26・37・40巻
第4回 第1・2・3・23・31	35・36・41巻
第5回 第19・42・43・44	45・46・47・48・49・50巻
第6回 第51・52・53・54	55・56・57・58・59・60巻
第7回 第61・62・63・64	65・66・67・68・69・70巻
第8回 第71・72・73・74	75・76・77・78・79・80巻
第9回 第81・82・83・84	85・86・87・88巻

# 定本 国訳秘密儀軌 全35巻・別巻1

国訳秘密儀軌編纂局・那須政隆監修

B5判・上製函入 揃一五七、五〇〇円(税込) ISBN4-336-00390-4

真言密教の正しき行法を伝えるものとして、古来より『秘密儀軌』の総称のもとに多くの密教経典と儀軌が伝持されてきた。真言宗の各寺院で日々行われている宗教行事の大部分は、その基本原理を『秘密儀軌』から取り入れている。これらの『秘密儀軌』を浄厳の『諸儀軌伝授目録』にしたがって分類・国訳し、解りやすい訳註をつけた一大集成。別巻に総目録を付す。

礼懺部・受戒部・悉曇部・壇法部・念珠部 第1巻	諸菩薩部 第9・10・11巻
普通部 第1・2巻	観音部 第12・13・14・15・16巻
護摩法部 第3巻	諸観音部 第17巻
天等部 第3・4・6巻	諸経法部 第18・19・20・21・22・24・25巻
明王部 第4・5・8巻	諸仏法部・仏頂部 第23巻
統明王部 第7巻	胎藏法部 第26・27巻
菩薩部 第8巻	雑部 第28巻
	統雑部 第29・30・31・32・33・34・35巻

## ◎体裁を整備した

復刻にあたり、正・統を合わせ、全体に通巻番号をつけた。旧版は真宗教学の宝庫として、不滅の権威と、高い評価をもちながら、反面通巻番号などの不備による使用上の混乱と不便さという弊害があった。今回の体裁の整備により検索および使用上の欠点は解消され今後の使用の基準を示した。

## ◎新しく目録・索引を作製

旧版では正篇のみ目録が刊行されたが、続篇を含まず、配本順番を分類の基準としていたため、今日ではその使命を喪失している。今回、第七十五巻に新基準、新配列による通巻番号の分類に基づき総目次、略分類目録、書名索引、編著者名索引、院号・別名索引を新しく作製し、収録した。また附録として、本願寺派講学略年表、大谷派学寮講義年鑑、真宗本願寺派学系略譜、真宗大谷派学系略譜を収録した。

# 口語全訳 華嚴経 上・下

江部鴨村訳

A5判・上製・総二四四八頁 揃四五、八七五円(税込) ISBN4-336-00896-1

◎本書は大乗仏教の根本経典である「華嚴経」の我が国における唯一の現代語全訳本である。

◎本書は漢訳華嚴経の完本である『六十華嚴経』と『八十華嚴経』のうち、前者を翻訳の底本としている。

◎本文中、主要な語句については頭註が付され、また巻末には索引が設けられている。

◎巻頭には、訳者による詳細かつ明解な解説が収録されている。